

★チャレンジ！夢に向かって★

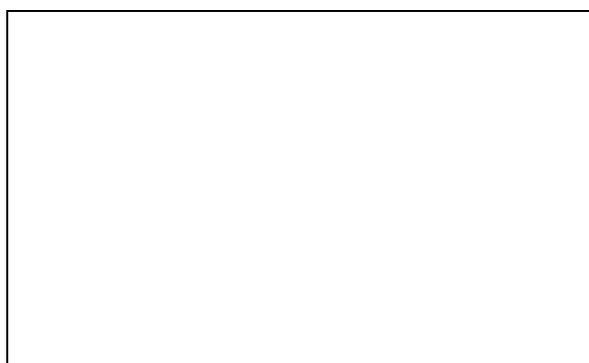
～ふるさとを愛し、一人一人が「か・が・や・く」国見の子の育成～

時間を意識した生活を！！

「大変だ。時間がない」などと焦ってしまうことが私にはよくあります。早めにやっておけばよかったと反省することもしばしばです。

時間を計るときには時計を使いますが、どのような時計を知っているでしょうか。日時計、水時計、砂時計、振り子時計、クォーツ時計、電波時計などいろいろあります。

昔の中国では、土の柱の影の長さを測り、その影が一番長くなる日を冬至と決めていたそうです。この柱は土圭（とけい）と呼ばれており、これが現在の時計の名前として使われているといわれています。右の写真は、秋田県鹿角市十和田にある縄文時代後期の遺跡で世界文化遺産にも指定されている大湯環状列石（ストーンサークル）です。これも日時計の一つと言われています。



さて、6月10日は時の記念日です。奈良時代につくられた「日本書紀」には、671年に6年生がこれから社会科の授業で勉強する天智天皇（中大兄皇子）が日本で最初の時計をつくったことが記されています。その時計は、水が落ちることによって時間を計る「水時計」だったそうです。その時計が動き始めたのが、6月10日でした。それを由来とし、今から約100年前の1920年（大正9年）に「時の記念日」が6月10日に定められました。大正時代の人たちは、欧米のように正確な時の感覚を身に付けて生活できるような日本にしようと「時の記念日」を定めたそうです。

「時は金なり」「時の流れ」「時の人」などの言葉があるように、時は大事なものです。無為に過ごすとあっという間に過ぎてしまいます。また、目に見えない時間ですが、時間は誰にでも平等に与えられています。そのため、時間をどのように使うかが、その人の生き方にもつながっていきます。

学校には時間割というのがあり、子どもたちは時間を守って学校生活を送っています。右の写真は、今日の3・4年複式学級の朝読書の様子です。学級担任がいなくても朝読書の時間になると自分の席に座り、集中して読書に取り組んでいます。本校の子どもたちは、授業や休み時間などの時間を意識して生活することが当たり前になっており、感心しています。これからも子どもたちには、時間を意識した生活を心掛けてほしいと願っています。

